

2015 年植林作業報告



以下のように、植林作業を実施したことを報告します。

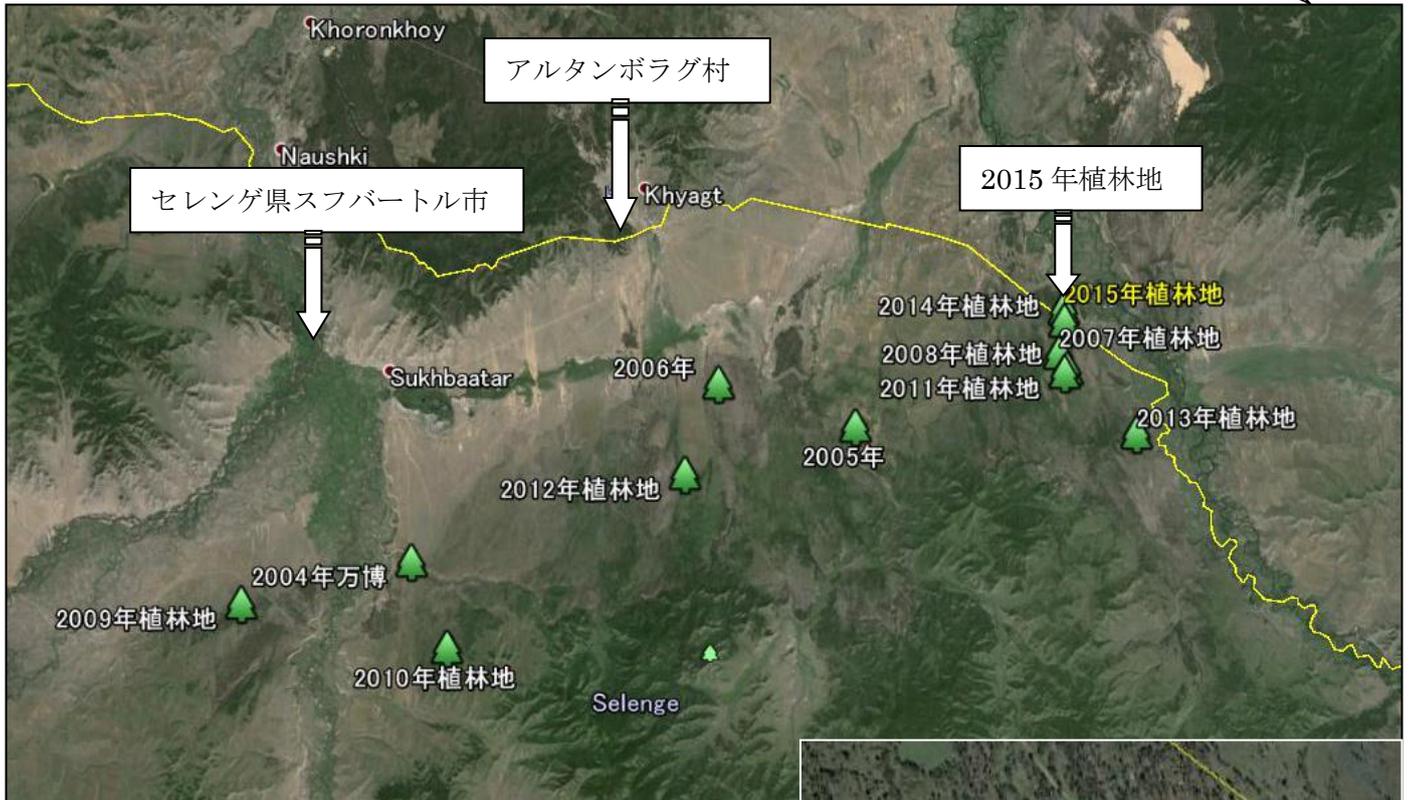
1. 植林作業実施概況

植林 実施日	春季	植林作業・・・・・・・・・・5月12日～15日 (新規植林) 約26ha
植林場所	モンゴル国セレンゲ県 アルタンボラグ村ゴロワンツァガートルゴイ周辺	
樹種	ヨーロッパアカマツ <i>Pinus sylvestris</i> (在来種) の2年生苗	
植林作業	アルタンツェツェグ (セレンゲ県ボゴントグループ) トゥメンナサン (ボゴントノミン社技術員) ノヨルマー (GNC Mongolia スタッフ) 小川 安里 (GNC Japan スタッフ) アルタンボラグ村及びボゴント村の村民など約15名他	

2. 植林作業本数概況

支援企業・団体名	2015年植林	
	予定本数	実績本数
トライウォール株式会社 エコフィン特約店葬儀社 (トライウォール『生命の森』)	22,800	22,800
約	9.12	ha

3. 植林地の位置



2015 年植林地位置図

2015 年植林地の GPS 捕捉状況 (外周代表点)

No	緯度	経度
1	50 14.236	106 54.532
2	50 14.458	106 54.559
3	50 14.474	106 54.715
4	50 14.347	106 54.863
5	50 14.154	106 54.887
6	50 14.053	106 54.936
7	50 14.033	106 54.810
8	50 14.149	106 54.781
9	50 14.131	106 54.587



代表点: 50°14'10.14"N 106°54'32.62"E

2015 年植林地代表点の緯度経度

4. 2015 年植林の概況報告

4.1 植林時の状況

2015 植林地はアルタンボラグ村ゴロワンツァーガントルゴイ周辺に位置し 2014 年植林地の西方に隣接する。当地域では 1996 年の森林火災以降も度々森林火災の被害に遭っている場所である。周辺では家畜の放牧は全く行われておらず、居住者もいないため、家畜の食害の危惧はないものと考えられる。2014 年～2015 年春にかけての越冬期は、積雪が少なく非常に乾燥した冬であったため、周辺各地の苗畑では

苗が乾いて黄色くなっている箇所も見られた。また、ロシア国境の遠方では森林火災とみられる煙が上がっていた。2012 年の春季も同様に火災による煙が多かったことを記録しているが、数年毎にその驚異と隣り合わせの中で植林を実施することになった。しかし、2012 年頃から行政主導の元、村役場や森林組合などの人員が火災危険期にパトロール隊を結成し、早期発見初期消火活動や関所での注意喚起を行っているため、大規模に延焼する可能性は低くなってきたものと考えている。

2015 年植林地の土壌は砂壤土で腐食がわずかで、腐食層は 10～40cm と少なくなって来ており、腐食の分解が進み土壌が硬い場所もあるため、速やかな植生回復が望まれる。右に植林時の状況写真を示す。

植林に用いた苗は、セレンゲ県ボゴント村の苗畑で育てられた 2 年生アカマツ苗を使用し、苗畑での抜き取り後は根茎を泥で包みビニール袋で運搬することにより、根の乾燥による植え付けリスクを軽減している。また植林場所での仮保存時は溝の中に置き水分を維持した。

溝幅は 4m 以内、植え付け間隔は 1.5m 以内で

植林を実施した。植林密度は 2500 本/ha である。

春季植林において予定していた 26ha の植林が全て完了したことを報告する。



苗の仮保存状況



写真. 植林前の苗の状況



遠景写真 A



遠景写真 B

4.2 植林時の状況写真

【2015年植林状況】



写真 1. 植林時の状況



写真 2. 植林時の状況



写真 3. 植林時の状況



写真 4. 植林時の状況



写真 5. 植林時の状況

5. 定点観測調査

植林地内においてランダムに調査定点を3カ所設定し、次の項目について調査を実施した。定期的に同様の調査を実施し、植林地としての変遷を追跡していくこととする。

5.1 成長把握調査

苗木の成長を把握するため、各定点で5本の苗木を試料木とし樹高測定・写真撮影。定点 St. 1 での調査結果は以下の通りである。



5.2 モニタリング調査

各定点から4方向の撮影を実施し、植林地の概況を把握。定点 St. 1 での結果は以下の通りである。



6. 写真



植林地写真(Tri-Wall)